

### 新庁舎×複合施設の相乗効果を最大化する全体配置計画

湯川と離山の裾野をつなぐように、3つの庭が敷地南北を貫くように連続します。

新庁舎は南北に長い敷地全体を見守るように東側にシンプルに配置し、国道側・駐車場側・分散する複合施設と、キャノピーの軒下でつながり、歩行ネットワークを形成していきます。

### 環境に配慮した庁舎（基本理念2）

#### 敷地風向、日射など

敷地の卓越風に対し、季節に応じた風の取込／遮蔽を考慮した配置計画とします。

大きな風の流れに対して効果的に風を誘引／遮蔽可能な部位を検証、開放的な建具で自然通風・換気を促進します。

日射に対しては建物の深い軒で低い日差しを遮るだけでなく、敷地内樹木の列植やパーゴラ・緑化ネットによる日射遮蔽等を測ります。建築部位だけでなく植物と一体となった日射遮蔽、通風メニューを検討し、パッシブな環境配慮を重視します。

自立循環型社会の実現を念頭に、再生／省エネルギーの項目ごとに効率と導入コストを検証、ZEBreadyの取得等、的確な目標設定を基に設計を行います。

浅間山からの噴石や火山灰の飛来に備え、設備吸気はフィルター等を備えます。



### 利用者に寄り添う庁舎（基本理念3）

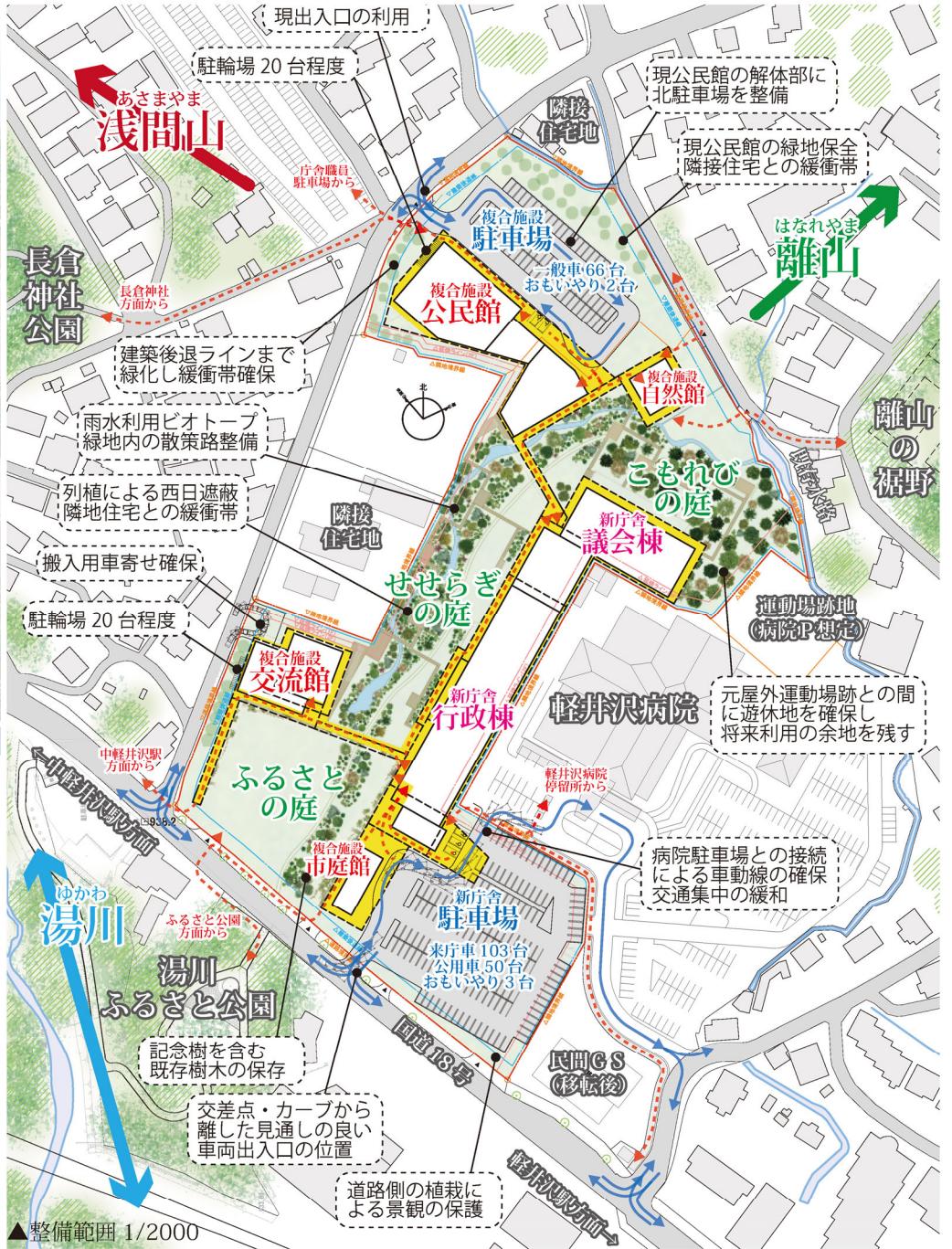
#### 南北の庭・緑の連続と、安心を重視した完全な歩車分離

庭を南北に連続させ、駐車場を南東・北西にまとめて確保することで、敷地内の歩車分離を徹底します。南側駐車場は路線バスが乗り入れる病院駐車場との接続についても、街区全体での利便性・車動線の合理化オプションとして検討します。

#### 利便性の高い車動線

駐車場はまとまった面積を整形で確保し、来庁者・公用車用を一体的につくることで、将来的な台数の融通がきく駐車場計画とします。

一部に本体庇を伸ばし、おもいやり駐車場や送迎の車回しを確保。路線バス等の停車位置からも軒下を通って庁舎へアクセスできる計画とします。



### 機能的・効率的な庁舎（基本理念5）

#### 適材適所の構造形式による柔軟性確保とスペック適正化

各建物の構造形式は、求められる耐震・耐火性能のみでなく、整備時期・建設工程上のメリットを比較検討し、適材適所に採用していくことを提案します。

建物棟数という前提条件から考え、各建物の要求条件に応じた形式を採用することで、全体でのスペックの適正化を図り、将来変化への対応も含め柔軟にフィットさせます。

